



# 相模原駅北口地区土地利用方針

まちづくりコンセプトの策定 (令和2年5月)  
多様な交流が新たな価値をうみだす  
ライフ×イノベーションシティ

## 相模原駅北口地区土地利用方針

**重要** 令和6年度 土地利用計画策定を目指す

### 将来の社会を見据えたまちづくり

- 人口減少・高齢化の進展**  
本市は今後、人口の減少、高齢者人口の増加が予測されています。
- 技術の更なる進展**  
AI・ロボット・IoT・ビッグデータの活用、自動運転技術の進展を見据え、イノベティブなまちづくりを進めることが求められます。
- ニューノーマルに対応した新たなまちづくり**  
新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機とした新しい生活様式(ニューノーマル)への変化に対応した新たなまちづくりが求められています。
- SDGsの推進**  
「持続可能な開発目標(SDGs)」に対して、国や地方自治体において様々な取組が進められ、本市においても積極的な取組を進めています。
- 脱炭素社会に向けたまちづくり**  
「さがみはら気候非常事態宣言」の表明など地球温暖化対策の取組を加速化している本市において、先導的な役割を担うまちづくりが求められています。
- 誰もが安全で安心して暮らせるまちづくり**  
比較的災害リスクの低い地区であることから、防災機能も併せ持つ安全・安心に配慮したまちづくりが求められています。  
多様な人々が共に支え合う共生社会の実現が求められていることから、あらゆる人々が生き生きと活動していくことに先端技術が貢献するようなインクルーシブなまちづくりを進める必要があります。



※共同使用地区に相模原スポーツ・レクリエーションパーク整備中  
10月1日「ボール遊び場広場」オープン

# 中学校給食 全員喫食へ (学校給食改革本部を創設)

**重要** 選択制デリバリー給食

⇒令和8年度中 全員喫食の開始を目指す

令和3年9～10月頃に実施した中学校給食に係るアンケート(生徒12,925名・保護者9,692・教職員532名)の結果、小学校のような温かい給食を強く望んでいる(8割)など、改善や充実を望む様々な声がありました。

相模原の未来を担う中学生へバランスの取れた食事や食生活の実現、それらを育む食育という教育の一環の中で、生きた教材である学校給食は生徒にとって非常に重要です。中学校給食の全員喫食実現のため、市長及び教育長を本部長とする「学校給食改革本部」を令和4年4月に設置し、市長部局と教育委員会がそれぞれの役割の下で連携して一体的に検討を進めています。



### ●事業スケジュール

	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
実施内容	学校給食あり方検討委員会 (仮称)学校給食改革本部会議(月1回開催)	中間答申	答申(最終)	想定(※市有地の場合)	設計/PFI等の募集	施設整備/改修工事	R8年中 全員喫食の開始【目標】
	実施方式に係る調査・検討	実施方針※改定案	大規模事業評価	実施方針※改定			
	候補地の検討						
※相模原市中学校給食完全給食実施方針							

# リニア中央新幹線新駅 橋本駅周辺のまちづくり

**重要** 令和4年度 都市計画決定を目指す

令和9年のリニア中央新幹線の開業を見据え、リニアの駅が設置される相原高校の跡地周辺約16ha(東京ドーム約3.4個)を重点地区としてまちづくりを進めています。

「産業の活力と賑わいがあふれる交流拠点」としての役割を担うため、三大都市圏を結び、鉄道や道路によって首都圏の各方面にアクセスが可能な交通ネットワークを活かし、交流ゲートとしてのまちづくり、また、周辺部の用途との近接性を生かし、産業交流拠点などの機能集積を図っていきます。



### ●事業スケジュール

	～R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度～
リニア駅工事								駅完成	
区画整理 道路事業									
区画整理 道路事業									
土地利用									

# 持続可能なワクワクする相模原へ

